

シスプラチンの治療を受けた肺がん患者さんへ（臨床研究に関する情報）

当院では、以下の臨床研究を実施しております。この研究は、通常の診療で得られた過去の記録をまとめることによって行います。このような研究は、厚生労働省の「臨床研究に関する倫理指針」の規定により、対象となる患者さんのお一人ずつから直接同意を得るのではなく、研究内容の情報を公開することが必要とされております。この研究に関するお問い合わせなどがありましたら、以下の「問い合わせ先」へご照会ください。

[研究課題名] がん化学療法における悪心・嘔吐コントロール状況と吃逆の関連性の検討

[研究機関] 北海道大学病院 薬剤部

[研究責任者] 井関 健 （薬剤部・部長）

[研究の目的]

抗がん剤の治療を受けられている方の中には、吃逆（しゃっくり）を起こす方がいらっしゃいます。その原因は、まだ十分に解明されていませんが、もしかしたら制吐剤（吐き気止めの薬）が吃逆の発生に影響を与えているのではないかとの説もあります。このため、吐き気や嘔吐の発生と吃逆の発生には何らかの関連性があるのではないかと考えられています。2009年にアプレピタント、2010年にパロノセトロンと呼ばれる新しい制吐剤が使われるようになりました。吐き気や嘔吐が、従来薬に比べてより良く抑えられるようになった一方で、吃逆の発生状況に影響を与えるのではないかと考えています。そこで、抗がん剤のシスプラチンによる治療を受けた方を対象に使われた制吐剤ごとに吐き気や嘔吐のコントロール状況と吃逆の発生状況について、診療記録を調べることにより調査を行わせていただき、今後のより良い治療に役立てることを目的としております。

[研究の方法]

●対象となる患者さん

平成21年4月1日から平成22年11月30日の間にシスプラチンの治療を受けた肺がんの患者さん

●利用するカルテ情報

年齢、性別、診断名、治療内容、検査結果、抗がん剤を含む処方と、前処置等含むその関連処方、副作用症状とそのグレード・継続日数、薬剤管理指導記録、看護記録

[個人情報の取り扱い]

利用する情報からは、お名前、住所など、患者さんを直接同定できる個人情報は削除します。また、研究成果は学会や学術雑誌で発表されますが、その際も患者さんを特定できる個人情報は利用しません。

[問い合わせ先]

北海道札幌市北14条西5丁目
北海道大学病院 薬剤部 担当者 井関 健
電話 011-706-5680 FAX 011-706-7616